

下水道技術開発会議におけるこれまでの取組と令和8年度の取組方針(案) ※赤文字はR7変更箇所

資料7-1

活動の柱	H28～R7年度の主な取組	左記の検討状況、課題	R8年度の取組方針(案)
柱①「技術ニーズの把握と発信」	事業主体の技術的課題・ニーズを把握するため、以下を実施 ・全国アンケート調査(H28,H29,R3) ・個別ヒアリング調査(6カ年で合計45団体(R4は6団体)) ・各種会議の議題調査 ・R4の都市ヒアリング調査結果を踏まえた課題解決技術支援ツール(試行版)の改良(R5) ・課題解決技術支援ツール(試行版)の更新・アクセス状況の分析(R6, R7)	・各種会議の議題調査により、主に中核市以上の都市における時宜にかなった技術ニーズについて確認した。 ・R7は、課題解決技術支援ツール(試行版)のデータ更新及びアクセス状況の分析及び代替手段として生成AIの活用について検討を行った。	【継続実施】各種会議の議題調査 【継続実施】課題解決技術支援ツール(試行版)の更新及び生成AI活用によるデータ更新効率化を検討(自治体との意見交換による操作性の向上、情報の更新等)
柱②「技術シーズの把握と発信」	研究開発主体の技術シーズを把握・蓄積するため、以下を実施 ・B-DASH等の技術提案の募集 ・技術提案内容等を審議の上、ロードマップを改定(H29.2,H29.8,H30.2,R3.2,R4.2,R5.2の6回) ・ロードマップ全体の現状での評価を行い改定(R6.2) ・上下水道科学研究費補助金の公募・採択(R6) ・ロードマップフォローアップ欄の更新(R6, R7) -------------	・AB-Cross実証証技術等を公募し採択した。 ・AB-Cross等の技術提案を募集した。 ・R7に公表された文献の調査を行い、フォローアップ欄の更新を行った。 -------------	【継続実施】AB-Cross等の技術提案の募集 【継続実施】引き続き、フォローアップ欄を改定・更新を検討 -------------
柱③「ニーズとシーズの架け橋」	技術ニーズや技術シーズの有効な意見交換方策を検討するため、以下を実施 ・プロジェクトGAMの活用と産学官連携を検討 ・技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方に関する業界団体ヒアリング(R1) ・技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方の検討として、課題チェックシートの作成(R2) ・課題チェックシートの改良、試行(R3) ・関連企業に対する技術開発状況に関するアンケート調査(R4) ・新技術の導入実績や新マニュアル・ガイドライン類の活用状況調査(R4) ・エネルギー分科会における技術開発動向整理表の整理(R5) ・課題解決技術支援ツール(試行版)の改良(R5) ・Geマッチング事業の開始(R5) ・文献調査等を踏まえた課題解決技術支援ツール(試行版)の更新(R6, R7) -------------	・ロードマップに関連する技術開発状況の文献調査を実施 -------------	【継続実施】引き続き、技術シーズの把握と発信のための調査を実施 -------------
柱④「国などの技術情報の共有(グローバルとローカルの架け橋(1))」	技術ニーズや技術シーズの有効な意見交換方策を検討するため、以下を実施 ・プロジェクトGAMの活用と産学官連携を検討 ・技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方に関する業界団体ヒアリング(R1) ・技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方の検討として、課題チェックシートの作成(R2) ・課題チェックシートの改良、試行(R3) ・関連企業に対する技術開発状況に関するアンケート調査(R4) ・新技術の導入実績や新マニュアル・ガイドライン類の活用状況調査(R4) ・エネルギー分科会における技術開発動向整理表の整理(R5) ・課題解決技術支援ツール(試行版)の改良(R5) ・Geマッチング事業の開始(R5) ・文献調査等を踏まえた課題解決技術支援ツール(試行版)の更新(R6, R7) 「意見交換の場の提供に関する提案、連携」として以下を実施 ・B-DASHガイドライン説明会、下水道展の展示、下水道キャラバン ・新技術が導入された好事例についてヒアリング調査(R6, R7) ・海外における新技術導入に関して日本企業に対するヒアリング及び海外法制度調査を実施(R7)	・R7は、課題解決技術支援ツール(試行版)のデータ更新及びアクセス状況の分析及び代替手段として生成AIの活用について検討を行った。【再掲】 -------------	【継続実施】課題解決技術支援ツール(試行版)の更新及び生成AI活用によるデータ更新効率化を検討(自治体との意見交換による操作性の向上、技術のニーズとシーズをよりマッチングさせるための方策及び情報の更新等)【再掲】 -------------
	B-DASH技術の周知のため、以下を国土交通省下水道部・国総研にて実施、検討 ・普及展開状況調査、公表 ・B-DASH技術情報資料の作成、公表 ・B-DASHガイドラインのフォローアップ ・B-DASH技術処理場別一覧の作成、公表	・下水道展の会場において、国土交通省下水道部・国総研にて、B-DASHガイドライン説明会を開催した(R7.8)。 ・近年、5つの新技術について導入自治体及び海外に展開する下水道関連日本企業にに対するヒアリング調査を行い、実施事例や教訓、課題等について整理した。 -------------	【継続実施】引き続き、技術シーズの把握と発信のための調査を実施 【継続実施】引き続き、技術シーズの把握と発信のための調査を実施 【継続実施】「意見交換の場の提供に関する提案、連携」の取り組み ・下水道展等の機会を活用して、産官学の情報交換等を支援することを検討 -------------
		・B-DASH技術の情報発信として左記の取組を適宜実施した。	【継続実施】B-DASH技術の情報発信 ・既存B-DASH実証技術A-JUMP技術及びAB-Cross実証技術に関する情報発信機会の拡大を検討

活動の柱	H28～R7年度の主な取組	左記の検討状況、課題	R8年度取組方針(案)
<p>柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援(グローバルとローカルの架け橋(2))」 1) 情報、ノウハウの共有による技術導入支援 2) 小都市等の下水道事業をサポートする技術の開発・普及方策</p>	<p>技術開発及び技術導入を支援するため、活動の柱①～③の内容に加え、エネルギー分科会にて以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 各処理規模に対して省エネ技術導入による電力消費量削減効果について整理(R2) 小規模処理場に関する実態調査(R2) <ul style="list-style-type: none"> (1)地球温暖化対策計画で定める下水道分野の2030年度削減目標の達成、(2)2050年カーボンニュートラルの実現への貢献、のために導入すべき技術分野や技術開発の方向性について議論(R3) 2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するための下水道技術の技術開発ロードマップ(カーボンニュートラルロードマップ)を作成(R3) <ul style="list-style-type: none"> (1)2050年カーボンニュートラルに向けたシナリオ検討により速やかに取組むべき技術開発項目の整理、(2)下水処理場におけるGHG排出削減目標設定支援ツールの作成、(3)下水道の他分野との一体処理推進や貢献評価手法、水処理過程で発生するGHG排出量削減等に関する議論(R4) <ul style="list-style-type: none"> (1)新技術開発促進に向けたロードマップのフォローアップ、新技術・効率化技術導入促進に係る意見聴取、(2)水処理過程からのN₂O実態把握に向けた調査マニュアル案の整理他(R5) 上下水道事業における温室効果ガスの排出実態把握(R6実施報告)及びOD法も含めたN2O調査マニュアル(案)の検討(R7) 中小都市に対する、課題解決技術支援ツール(試行版)の積極的な広報(R5) 	<ul style="list-style-type: none"> OD法も含めたN2O調査マニュアル(案)の改定案を国総研HPに掲載(R7) 	<p>【継続実施】地方都市における技術開発及び技術導入を支援するための取組を実施</p>
<p>活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」</p>	<p>技術ビジョンのフォローアップのため、技術提案の募集、行政・社会ニーズの動向を踏まえ、以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術提案内容等を審議の上、ロードマップを改定(H29.2,H29.8,H30.2,R3.2,R4.2,R5.2の6回) ロードマップ全体の現状での評価を行い改定(R5) ロードマップフォローアップ欄の更新(R6、R7) <p>研究開発等を重点化して実施すべき技術開発テーマを提示するため、以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ロードマップ重点課題の検討 ロードマップ重点課題を審議し、これまでに9回公表(H28.7,H29.8,H30.8,R1.8,R2.8,R3.8,R4.8,R5.8,R6.8) <p>ロードマップへの取組状況を確認するため、以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ロードマップに関連する技術開発状況の文献調査(H30,R1,R5,R6,R7) 関連企業に対する技術開発状況に関するアンケート調査(R4) 新技術の導入実績や新マニュアル・ガイドライン類の活用状況調査(R4) 6つのWGを設置し、ロードマップ全体の文献調査や現状での評価を実施(R5) 	<ul style="list-style-type: none"> ロードマップに関連する新たな技術開発状況の文献調査を実施 R7年度は、ロードマップ重点課題のを追加等は行わなかった。 ロードマップに記載された技術開発の実施状況の文献調査を実施 	<p>【継続実施】技術提案や行政・社会ニーズの動向を踏まえ、ロードマップの改定の必要性について検討</p> <p>【継続実施】ロードマップ重点課題の検討</p> <p>【継続実施】ロードマップの技術開発状況に関する調査を継続</p>